

学校教育目標	夢実現へ挑戦する生徒の育成
--------	---------------

学校経営目標	たくましい実践力のあるいきいきと躍動する学校 1 確かな生徒理解のもと、生徒一人一人のよさや可能性を生かす学校 2 互いに磨き合い、高め合い、夢実現に挑戦する学校 3 生徒・保護者・地域から信頼され、応援される学校	めざす生徒像	夢と希望をもち、力強く歩み続ける子 1 自分の思い・考えをもつ生徒 2 自分も人も大切にすする生徒 3 人とつながる生徒 4 挑戦する生徒
--------	--	--------	---

めざす生徒像を実現するための今年度の重点目標	重点 1 確かな学力 主体的・対話的で深い学びを生み出す授業の中で確かな学力を身に付ける 重点 2 豊かな心 健やかな体 一人一人の心と体の健全な育成に向けた丁寧な指導・支援を一層充実させる 重点 3 地域とともにある学校づくり 地域との連携・協力を一層充実させ、地域とともにある学校づくりを推進する
------------------------	---

ふるさとキャリア教育				
気付く力 自分のよさに気付く 地域のよさに気付く 疑問・価値に気付く	考える力 自分事として考える 情報を分析する 論理的に考える 課題を解決する	つながる力 人の考えとつながる 仲間とつながる 地域とつながる 実社会とつながる	伝える力 コミュニケーションをする 自分の考えを伝える 地域に発信する	将来をえがく力 学び続ける意欲 将来の自分の姿をえがく・進路選択 よりよい社会や地域をえがく

生徒評価					
評価項目	令和 6 年度	令和 7 年度	評価項目	令和 6 年度	令和 7 年度
基礎・基本的な学習内容が身に付いた。	3.3	3.4	進んで明るいあいさつをした。	3.4	3.5
集中して授業を受けることができた。	3.3	3.5	きまりを守り、正しい身なりで生活した。	3.7	3.6
挙手・発表や話し合い活動（意見交換）など、積極的に自己表現ができた。	2.9	3.0	TPO（時・場所・状況）をわきまえた発言や行動ができた。（例：敬語が使える、公共の場で騒がないなど）	3.5	3.6
自分の意見を主張しすぎず、仲間の意見も大切にすることができた。	3.5	3.6	自転車のマナーや交通ルールを守って、地域の方々や一般車両の迷惑にならないように、安全に登下校ができた。	3.6	3.6
発表するとき、聞き取りやすい声で語尾まではっきりと発言することができた。	3.1	3.2	健康的な生活を送ること（生活のリズムの安定、十分な睡眠時間、病気の予防行動など）を意識できた。	3.3	3.4
教科の授業や学活、道徳、総合的な学習の時間において、タブレットを十分活用できた。	3.6	3.5	自分だけでなく、仲間のことも大切にした学校生活（発言・行動）を送ることができた。	3.5	3.6
宿題以外の家庭学習にも意欲的に取り組んだ。	2.9	3.0	SNS の利用を含み、情報モラルを守った適切な使い方ができている。	3.8	3.7
授業の内容は分かりやすかった。	3.3	3.5	5つの力（気付く力・伝える力・考える力・つながる力・将来をえがく）を意識して生活することは大切なことだと感じている。	3.4	3.4
「知りたい」「やってみたい」「できるようになりたい」と思う授業が多かった。	3.1	3.2	5つの力（気付く力・伝える力・考える力・つながる力・将来をえがく）を意識して日々の学校生活することができた。	3.1	3.3
学校行事（体育大会、合唱コンクール、修学旅行、野外活動、地域探訪等）に積極的に取り組めた。	3.7	3.7	学級や生徒会、部活動等での役割に対し、集団のために役に立ちたいと思って取り組むことができた。	3.4	3.3
部活動、校外クラブ等では、技術や体力の向上に向け、ねばり強く取り組むことができた。	3.6	3.6	学級や生徒会、部活動等での役割に対し、やって良かったと感じている。	3.5	3.6
将来の夢や身近な目標をもって、日々の生活を送ることができた。	3.1	3.3	各項目の点数は、下記のように各項目を4件法にて回答し、点数化し平均で示したものである：4 だいたいできている：3 あまりできていない：2 できていない：1		

保護者評価					
評価項目	令和 6年度	令和 7年度	評価項目	令和 6年度	令和 7年度
学校は、子供にとって「わかる授業」を行っている。	2.9	2.9	お子様は、家庭学習の習慣が身についている。	2.5	2.4
学校は、「あいさつが響く」「思いやりがあふれる」「全力を尽くす」など、一人一人の可能性を伸ばす学校づくりを推進している。	3.1	3.1	学校の様子を含め、親子の会話を欠かさないようにしている。	3.2	3.2
学校は、いじめや差別がない、互いを認め合うことができる集団の育成を推進している。	3.1	3.1	将来の夢や身近な目標について、親子で話をしている。	2.9	2.9
学校は、「細江中学校いじめ基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めている。	3.1	3.1	お子様は、朝・晩のあいさつや登校・帰宅のあいさつなど、家に人や近所の人にあいさつをしている。	3.1	3.1
学校は、地域や家庭と連携し、地域とともにある学校づくり（社会に開かれた学校）を推進している。	3.2	3.2	お子様は、毎日朝食をきちんと摂っている。	3.6	3.6
学校は、魅力ある学校行事を推進している。	3.2	3.2	お子様は、生活のリズムを崩すことなく、毎日おおむね同じ時間に起床・朝食・登校・帰宅・夕食・就寝ができています。	3.0	3.1
学校は、子供の安全や健康のための取り組みを十分に行っている。（適切な学級閉鎖や防災訓練、薬学講座、交通安全教室、いい声かけデーなど）	3.3	3.4	SNSを含む、インターネットの使い方や利用時間等に関して、お子様と話をしている。	2.9	2.8
お子様は、基礎・基本的な学習内容が身についている。	2.6	2.6	登下校時の交通ルールの順守等、安全（防犯）に関する話をお子様としている。	3.2	3.1
学校は、便りやホームページ等で、学校の様子をよく知らせている。	3.4	3.2	各項目の点数は、下記のように各項目を4件法にて回答し、点数化し平均で示したものできている：4 だいたいできている：3 あまりできていない：2 できていない：1		

学校運営協議会委員					
評価項目	令和 6年度	令和 7年度	評価項目	令和 6年度	令和 7年度
学校は、子供にとって「わかる授業」を行っている。	3.0	3.3	学校は、魅力ある学校行事を推進している。	3.5	4.0
学校は、「あいさつが響く」「思いやりがあふれる」「全力を尽くす」など、一人一人の可能性を伸ばす学校づくりを推進している。	3.8	3.7	学校は、夢や希望の実現に向けた「ふるさとキャリア教育」の充実を図っている。	3.8	4.0
学校は、地域と連携し、地域とともにある学校づくり（社会に開かれた学校）を推進している。	4.0	3.9	学校は、子供の安全や健康のための取り組みを十分に行っている。（適切な学級閉鎖や防災訓練、薬学講座、交通安全教室、いい声かけデーなど）	3.8	3.7
学校は、いじめや差別がない、互いを認め合うことができる集団の育成を推進している。	3.8	3.9	学校は、便りやホームページ等で、学校の様子をよく知らせている。	4.0	3.7
学校は、「細江中学校いじめ基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めている。	3.8	3.9	各項目の点数は、下記のように各項目を4件法にて回答し、点数化し平均で示したものできている：4 だいたいできている：3 あまりできていない：2 できていない：1		

教職員評価	
<p>行事や日常で、常に生徒が目標を持っている状態が夢実現へ挑戦する生徒の育成によいと改めて感じた。</p> <p>合唱コンクールでは、「いきいきと躍動する」にふさわしい元気さがありました。予測のつかない日々の中でも、実行委員をはじめとした生徒と生徒らが歌う曲の元気さがとてもよかった。</p>	<p>ホソフェスでは、3年生中心に生徒が主役となって発表できていたと思います。ほとんどが生徒主導で行うことができていた。</p> <p>授業での3年生の様子から、生徒たちなりに緊張感をもって意欲的に学習に臨もうとする姿勢が感じられる。</p> <p>専門委員会の一人一人がそれぞれ思考を巡らせながら活動できていると感じる。</p>

自己評価の考察
<p>生徒会本部や実行委員会が中心となり、ホソフェスや合唱コンクール等の学校行事に主体的・自律的に取り組む姿が見られた。特に3年生がリーダーシップを発揮し、生徒主導で企画・運営を行うことで、集団としての高まりや行事を通じた達成感・自己有用感を深く味わうことができた。</p> <p>生徒評価において「授業の内容は分かりやすかった」や「基礎・基本的な学習内容が身に付いた」の数値が向上しており、教職員による授業改善の成果が表れつつある。一方で、保護者評価における家庭学習の習慣化は横ばい（低下傾向）であるため、今後は「わかる授業」のさらなる充実に加え、家庭とも連携しながら、生徒が自ら学びに向かう意欲や学習習慣の定着を図る必要がある。</p> <p>「細江中学校いじめ基本方針」に基づき、組織的な未然防止・早期発見・早期対応に努めた結果、保護者および学校運営協議会からの評価ポイントが前年度より上昇した。生徒間でも「仲間を大切に」意識が高まっているが、SNSの適切な利用に関する評価はわずかに低下しているため、情報モラル教育の充実や家庭との連携を強化し、見えない部分でのトラブル防止にも注力していく。</p>

学校関係者評価の結果（令和8年2月18日 第3回学校運営協議会）
<p>「ふるさとキャリア教育」は、生徒のプレゼン能力や地域愛の深まりが委員から高く評価された。いじめ防止について、教員の真摯な寄り添いや相談しやすい環境作りが高い信頼を集めている。一方で、ICT活用は日常化しているものの、保護者評価における家庭学習の習慣化や、学校からの情報発信の充実度には依然として課題が指摘された。</p>

次年度に向けての改善方針
<p>「わかる授業」を追求し、家庭と連携してタブレットを有効活用した学習習慣の定着を図る。いじめ防止ではSNS等の「見えない課題」への対応を強化し、家庭との情報共有を密にする。地域連携では、生徒のアイデアを地域の祭典等で具現化できるよう地域団体と調整を進める。また、HP等を通じて活動の意義を保護者へより戦略的に発信し、学校への理解と協力を深める。</p>